

2022年7月1日

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 7月えんだより**

「主に向かって 心からほめ歌いなさい。」

(エフェソの信徒への手紙5章19節～20節)

梅雨に入り、むし暑さが日増しに強くなってきました。感染症もまだ気が抜けませんし、暑い夏の熱射病等にも注意を払っていく季節になりました。体も疲れやすい時期となりますが、健康に留意しながら、毎日を元気に過ごしていくことができるように、心からお祈りします。

夏は、色々な生き物が地上に現れます。外に遊びに行ったら、「こんな見つけた!!」と話す子ども達の姿は、目が輝き、生き生きとしています。夏の水遊びも子ども達の楽しみの一つですね。この時期にしかできない遊びをしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

さて、子ども達には遊ぶ、食べる、寝る権利があり、褒められる、叱られる、そして、愛される権利があるとキリスト教保育のなかでは語り継がれています。つまり、子ども達のありのままの姿を全て受け容れ、一人一人が愛されて、守られる存在であることが幾度となく語られます。しかし、この2年間を振り返ると、子ども達は、そうした権利を本当に与えられて来たのであろうかと猛省することがたくさんあります。多くの方々が体験された、幾度となく感染症が広がる懸念や不安の繰り返しや、気候の変動による災害、そして世界に目を向けると、争いが止まない現実に、子ども達が、安全に、安心して、愛されて、守られて過ごせたとはいえない現実から目を背けることができません。

凡そ2000年の間に書き留められて、改訂されてきた聖書の中には、こうした時代の生き方について大切な示唆が与えられています。今月の聖句「主に向かって 心からほめ歌いなさい」は「神様を見上げて、真実な心で感謝し、心を通わせましょう」と言い換えることができます。こうした不透明な時代や不安を抱く時代にこそ、「無分別な者とならず、神様の御心が何かを考えましょう」と言われます。「神様は、どうするかな?」「神様ならどう言われるか?」と、立ち止まりながら考えることや、私たちは今、命が与えられ、時を過ごしていることや生かされていること、そのものを有難いこととして、感謝して歩むことであるといえます。

毎日の慌ただしい日々の中では、そうはいつでも感じられないのが現実かもしれません。しかし、神様から光照らされた一人一人の命と存在を、感謝して共に生きること、本当の希望があることを聖書は語っています。感謝と賛美をいつも心に抱いていきたいと願います。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

7月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	*夏の自然にふれ、遊びや生活を楽しむ *水・砂・泥の感触を親しむ	*神様の創られた自然に触れ、親しむ *土・砂・水に存分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ *健康に過ごすための生活習慣を身につける。
讃美歌	どんどこどんどこ こども改106	イエスさま いるってほんとなこども改16